

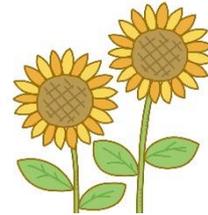
「夏休みに読んだ本」が

特別な1冊になりますように



自分が読んだ好きな本の思い出は、
大人になっても宝物になりますよ。

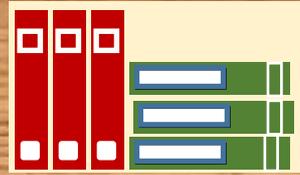
この夏に、1冊でも100冊でも！
お気に入りを見つけてみませんか？



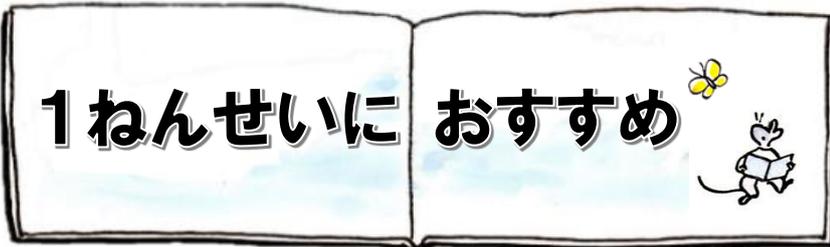
たんだ新聞社
〒270-1147
我孫子市若松 26-4
我孫子市民図書館
TEL 04-7184-1110



★★ 今号の特集 ★★
夏休みにおすすめの本



図書館には、夏休みの自由研究や、工作の本、調べものに役立つ本、読書感想文におすすめの本もあるよ！



「車のいろは
空のいろ 1
白いぼうし」
あまん きみこ／作
北田 卓史／絵
ポプラ社(1-ア)



「ぼくのつくえは
ぼくのくに」
佐藤 さとる／作
村上 勉／え
学研(Gakken)(1-サ)



「どろんここぶた」
アーノルド・ローベル 作
岸田 衿子 訳
文化出版局刊(EA口)



「がちょうの
ペチューニア」
ロジャー・デュボワザン／作
まつおか きょうこ／訳
富山房(EAデ)



「海のおばけオーリー」
マリー・ホール・エッツ／文 絵
石井 桃子／訳
岩波書店(EAエ)

アザラシの赤ちゃんオーリーは、ある日、おかあさんとはぐれてしまいます。つれてこられたところは、とおい町の水族館。やっどのおもいで海に出たのに、おばけにまちがえられて大さわぎになってしまいます。



「エルマーのぼうけん」
ルース・スタイルス・ガネット／さく
ルース・クリスマン・ガネット／え
わたなべ しげお／やく
福音館書店(2-ガ)

エルマーは、どうぶつ島にとらわれているかわいそうな竜の子どもをたすけるために、たった1人で出かけます。ガムやハミガキをつかって、おそろしい動物たちから竜をたすける、ゆかいなぼうけんのものがたりです。

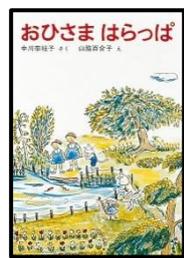
2ねんせいにおすすめ



「ぼくのわたしのすいぞくかん」
 小宮 輝之／文
 津田 櫓冬／絵
 福音館書店(EMカ)



「はらぺこオオカミがんばる」
 キャサリン・ストー／作
 掛川 恭子／訳
 岩波書店(2-ス)



「おひさまはらっぱ」
 中川 李枝子／さく
 山脇 百合子／え
 福音館書店(1-ナ)

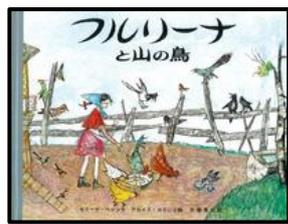


「おしゃべりなたまごやき」
 寺村 輝夫／作
 長 新太／画
 福音館書店(EAチ)



「こんにちは、バネッサ」
 マージョリー・W・シャーマット／作
 リリアン・ホーバン／絵
 小杉 佐恵子／訳、岩崎書店(2-シ)

子ネズミのバネッサは、とってもはずかしがりやです。「こんにちは」もうまくいえないので、友だちもできません。ところがある日、^{ゆうき}勇氣をだして、手をあげてこくばんに^{こた}答えを書くと、バネッサに話しかけてくれる子があらわれたのです。



「フルリーナと山の鳥」
 ゼリーナ・ヘンツ／文
 アロイス・カリジェ／絵
 大塚 勇三／訳
 岩波書店(EAカ)

フルリーナは、山の中でキツネにおそわれたひなを^{たいせつ}たすけ、大切にそだてました。山の鳥も、フルリーナのことが大すきで、そばにいたがりました。けれど、大きくなるにつれて、鳥は森や山をこいしがるようになり…。

3年生におすすめ



「ふしぎな500のぼうし」
 ドクター＝スース／さく・え
 わたなべ しげお／やく
 偕成社(EAD)



「みしのたくかにと」
 松岡 享子／作
 大社 玲子／絵
 こぐま社(1-マ)



「やかまし村の子どもたち」
 リンドグレーン／作
 大塚 勇三／訳
 岩波書店(2-リ)

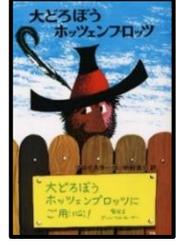


「大きいゾウと小さいゾウ」
 アニタ・ヒューエット／著
 清水 真砂子／訳
 大日本図書(2-七)



「いっぽんの鉛筆のむこうに」
 谷川 俊太郎／文
 坂井 信彦／ほか写真、堀内 誠一／絵
 福音館書店(EMタ)

^{えんぴつ}鉛筆をつくるのに、何と何と何がひつようか、知っていますか？何種類もの材料もひつようですが、びっくりするくらいたくさんの方がいっぽんの鉛筆をつくるのに仕事をしているんですよ。



「おお 大どろぼう ホツツェンプロッツ」
 プロイスラー／作、トリップ／絵
 中村 浩三／訳
 偕成社(2-プ)

カスパールのおばあさんの家にとどろぼうが入りました。その名は「ホツツェンプロッツ」。黒ひげモジャモジャ、かぎっ鼻、こしに7本の短刀、手にピストルの大どろぼう。カスパールはなかよしのゼッペルといっしょに大どろぼうをつかまえに出かけます。